



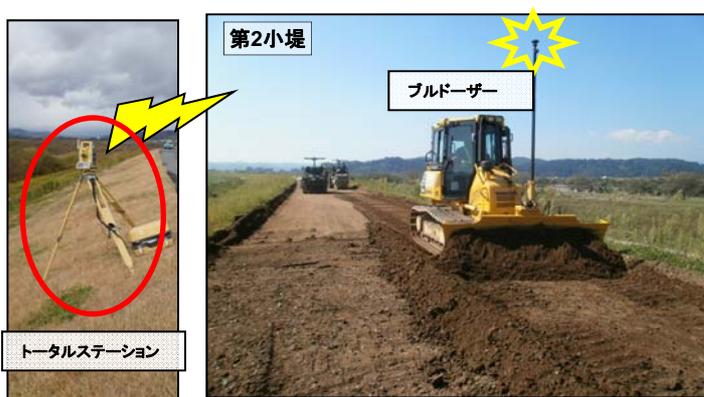
築堤工事における情報化施工の紹介

現在、一関遊水地事業の各工事では様々な情報化施工(※)が取り込まれ、施工管理や品質確保に大きく関わっています。今回はその一部を紹介します。

下の左側の写真は、【GPS転圧管理システム】の活用で、GPSにより振動ローラーなどの締固め機械の位置をリアルタイムで取得することで締固め(転圧)回数を自動的に管理し、踏み残しや踏み過ぎを少なくすることができ、品質の向上が図れます。また、右側の写真は、【3次元マシンコントロールシステム】の活用で、トータルステーション制御によるブルドーザーで施工することにより常に所定の高さで仕上げることができるため、オペレーターの熟練度に関わらず一定以上の品質を確保することができます。



【GPS転圧管理システム】



【3次元マシンコントロールシステム】

※情報化施工とは、情報通信技術の活用により、高効率・高精度な施工を重視し、建設生産プロセス全体における生産性の向上や品質の確保を図ることを目的としたシステムです。

河川管理施設紹介～排水機場～

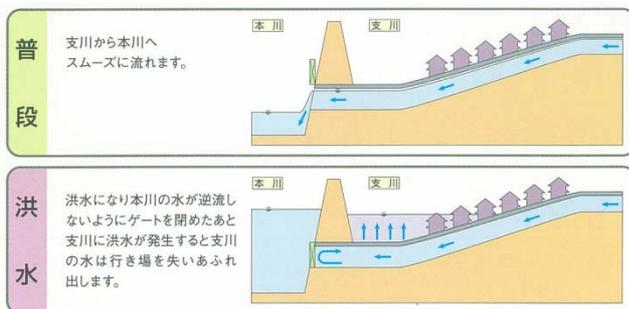
今号では、河川管理施設の一つである排水機場について紹介したいと思います。

洪水などで北上川や磐井川などの水位が上昇すると、逆流を防ぐため樋門や樋管のゲートを閉めます。この時に樋門や樋管の上流で雨が降り続けると排水ができなくなり、内水被害が発生してしまいます。

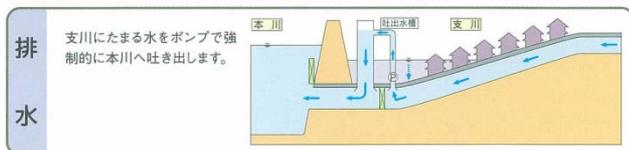
この内水被害が生じないようにポンプで水をくみ上げ、北上川や磐井川に排水する施設を排水機場といいます。

一関出張所管内には平泉、前堀、吸川の3箇所に排水機場があり、前号で紹介した一関遊水地集中管理センターで遠隔操作が可能となっています。

●内水被害のしくみ



●排水機場とは



←前堀排水機場(写真左)と吸川救急内水排除施設(写真右)



◆◆編集後記◆◆ 3月に入っても寒い日が続いています。乾燥もしているためまだ風邪やインフルエンザなども流行していますので、うがい手洗いやマスクなど予防対策をしっかりとって乗り切りたいですね。(え)